

【市民のみなさんにお願ひ】

中核病院について 正しく理解し、ご判断を お願ひします。

よくある疑問点を分かりやすくまとめてみました

Q1

中核病院ができれば、すべての医療がここ萩市で完結できますか？宇部市の大学病院や山口市の日赤病院のような大きな病院ができますか？

A1

萩医療圏をはじめ地方の医療圏は慢性的な医療従事者不足が続いています。萩市の中核病院は、現在の医療提供体制の「維持」を目的に、萩市民病院と都志見病院の2病院を統合し、設置を目指しているものです。統合しても大学病院のような大きな病院ができるわけではありません。高度・先進医療の受診・処置は、市外の大学病院等との連携が必要であり、その場合は、これまで通り宇部市や山口市への通院となります。

水津 かずお 後援会

西島 孝一 後援会事務所

美原 喜大 後援会

長岡 けんたろう 後援会

平田 啓一 後援会

森田 宗和 萩宗友会 代表

作成：せき 伸久 後援会 萩市大字椿東2399-1

Q2 中核病院づくりに時間がかかっているのは、なぜですか？

A2 まずは2病院統合にむけての基本合意を目指しています。萩市が都志見病院の資産を買い受ける手法で協議を重ねていますが、「事業譲渡の価格」「事業譲渡の範囲」のほか、「従業員の取扱い」等で現時点において合意に至っていないためです。決して進めていないわけではなく、とても繊細な交渉を重ね、妥協点を見出す努力を行っています。

Q3 「事業譲渡の価格」はどのように決めるの？

A3 公平・公正を期すため、萩市では相手方の医療法人の資産査定を大手監査法人を通じて行っており、その結果を参考に交渉を行っています。



Q4 その価格は開示されるの？

A4 2病院間で守秘義務契約を締結しており、その価格は基本合意に至るまで開示されることはありません。

Q5 価格等に折り合いがつかない場合はどうなるの？

A5 当然、基本合意に至るまでの交渉が長引く可能性が出てきます。

Q6 相手方病院の資産査定の結果は、誰が知っているの？
前市長も知っているの？

A6 田中市長とごく一部の萩市の職員のみが情報開示の範囲であり、前市長はその対象にありません。逆に、それを知り得る立場だからこそ、慎重に議論を重ねていると言えます。

Q7 中核病院はいつできるのですか？

A7 都志見病院の事業資産を萩市に譲渡すれば、すぐに中核病院ができるわけではありません。最終的に医療機能を集約するまで約5年はかかります。

Q8 中核病院を設置した場合は、どれだけ費用がかかるの？

A8 萩市民病院を増築し、都志見病院の建物を解体した場合は約97億円、都志見病院を改築した場合は約98億円、新たな場所に整備し、両病院を解体した場合は約154億円と試算していますが、これはあくまでもコロナ禍前のデータに基づく試算であり、現在の物価高の状況下では、新たな病院を整備（施設整備・医療機器購入）する場合は、約200億円かかるとの見通しが萩市議会で示されています。中核病院形成のメリットは、人材をはじめとした医療資源の集約と、それに伴う効率的な運営（チーム医療）にありますので、新たな病院の整備がその目的に叶うと考えています。

Q9 これだけの費用がかかるのであれば、国からの財政支援はないの？

A9 初期投資にかかわるところで、病院事業債（借金）で40%、過疎債（借金）で70%の国からの交付税措置がありますが、より有利な過疎債を起債する場合は、全体の地方債の1/2を超えることはできないなどの制約があります。

Q10 それ以外に補助金等はないの？

A10 目指す中核病院は、萩市民病院（100床）、都志見病院（234床）を統合し250床の病院とする予定で、ベッド数を「削減」することを目指しています。このことで、国からダウンサイジング補助金を得られる見込みですが、その額はわずか約1.7億円でしかも1回限りの補助金です。

Q11 中核病院の母体となる萩市民病院の経営が急速に悪化していると聞いていますが、その状況は？

A11 萩市民病院の経営状況の推移をまとめてみました。参考にしてください。

病院の形態	萩市民病院			中核病院
	平成12年度 (2000) (萩市民病院開設時)	平成26年度 (2014) (医業収益のピーク)	令和5年度 (2024) (直近)	令和32年度 (2050) (今から25年後)
医業収益(千円)	1,226,154	2,305,197	2,068,734	?
医業収支(千円)	▲ 387,928	▲ 385,107	▲ 696,792	?
人件費(千円)	707,062	1,345,000	1,432,807	?
病床数(床)	100	100	100	250 (当初)
萩市の人口(人)	61,745	51,087	42,188	21,167
病院資産	約56億円	約47億円	約37億円	約97~200億円?

※令和32年度(2050)の人口は「R5日本の地域別将来推計人口(国立社会保障・人口問題研究所)」より

これを見ると、萩市民病院の医業収益のピークは平成26年度です。それ以降、当時を上回る医業収益を確保できていません。その要因は、人口減少（患者の減少）と一定の相関関係があるように思われます。また、医業収益が増えても必ずしも収支が改善されるわけではありません。近年は、むしろ医療人材の確保等で人件費が増え、収支が悪化する傾向が見てとれます。

Q12 この萩市民病院の赤字の穴埋めはどうしているの？

A12 萩市の一般会計から負担金・補助金・出資金という形で財政支援をしています。今年度(令和6年度)は、この金額がはじめて「**10億円**」を超えるものになります。一般会計は、市民のみなさんの税金を預かる会計であり、すなわち市民の負担とも言えます。よって、中核病院の形成には引き続き慎重な議論が必要です。